

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞ 移植後血球貪食症候群に対するインフリキシマブ投与の効能
＜研究機関・研究責任者名＞ 日本大学医学部附属板橋病院 小児科 教授 森岡 一郎
＜研究期間＞ 機関の長の初回許可日 ～ 令和 12（西暦 2030）年 3 月 31 日
＜対象となる方＞ 2014 年 1 月～2025 年 6 月までに当院小児科で移植治療を行った患者さまのうち、移植後血球貪食症候群を発症し、インフリキシマブを投与された患者さま
＜研究の目的＞ 血球貪食症候群は異常に増殖・活性化した T 細胞やマクロファージが産生するサイトカインにより、高サイトカイン血症が持続する病態です。移植後血球貪食症候群の発症はまれですが、その治療が奏功しない場合には予後は極めて不良であると言われています。通常、ステロイドなどの免疫抑制療法が行われますが、移植後早期血球貪食症候群に対するステロイド、シクロスポリン A など免疫抑制剤による治療成績は良好とはいえ、また、移植後はウイルス感染症を併発し免疫抑制を回避したい場合もあるため、これらの薬剤が使用しづらい患者さんがいらっしゃいます。近年、ステロイド不応性の血球貪食症候群に対し、免疫療法として抗ヒト TNF-α モノクローナル抗体製剤（インフリキシマブ）治療の報告があります。本薬剤はステロイドのように直接リンパ球免疫能を抑止せずに、炎症性サイトカインである TNF-α を抑制するという利点があります。移植後血球貪食症候群に対してインフリキシマブによる治療を行った患者さんの臨床的特徴について検討することを目的としています。
＜研究の方法＞ 診療録を用いて当時の臨床症状、検査所見、画像所見などを収集し、解析を行います。
＜研究に用いる試料・情報の項目＞ 診療記録（臨床症状、検査所見、画像所見）を確認させていただきます。
＜お問い合わせ窓口＞ 日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1） 小児科学系小児科学分野 助教 下澤 克宜 電話：03-3972-8111 内線：（医局）2442 （PHS）8128

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方